

柳之御所遺跡出土の重要文化財指定品の修復（令和4年度）

《修理前》

柳之御所遺跡から出土した重要文化財について、脆弱な指定品の保管及び展示に益するため、保存修理を進めています。

令和4年度は16点の修復及び保存箱の作成を行いました。

1 折敷 4点 修理内容：保存箱作成

破損等の危険を減少させ、より良い状態での保存管理を行い、かつ展示作業に配慮した保存箱を作成する。



2 扇骨 10点 修理内容：補強・保存箱作成

折損箇所を補強するとともに、破損等の危険を減少させ、より良い状態での保存管理を行い、かつ展示作業に配慮した保存箱を作成する。



3 漆器椀 1点 修理内容：接合修復

地震によりき損した破片を接合し、修復する



4 漆器皿 1点 修理内容：接合修復

地震によりき損した破片を接合し、修復する。



《作業手順》

対象資料の個々の復元方針に基づいた修復作業前に以下の要領で状態調査を行っている。

- ① 接合し、接着剤を補充した状態にあるため、まずX線デジタル撮影による写真撮影を行い、現状の記録を行う。
- ② 仮接合している破片はすべて解体したうえで、既存の接着剤等の除去及びクリーニングを施す。
- ③ その際、モニターでX線画像をコントラスト調整しながら破片に接着剤が被っているかの確認を行い、被っていることを確認した場合は慎重に除去する。
- ④ 保存箱作成にあたっては、ウレタンによる形を取り、形にあったアクリル箱を作成する。



1 折敷

PEGが染み出したと思われる付着物（○部分）が無理に除去できないので同系色による補彩を実施。



3 漆器椀

資料の変形によりすき間（○部分）ができるので、すき間を補填し、旧状復旧とする。



2 扇骨

欠損部及び接合に伴うすき間部分について同系の彩色を施して補填を実施。



4 漆器皿

歪みはあるものの、完形復元が可能なので、完形復元とし、白色部分は同系単色で補彩する。

《修理後》

1 折敷 修理内容：補填、補彩、安定台座・保存箱作成



必要な箇所に補填、補彩を行ったうえ、ウレタンで型を取り安定台座を、形にあったアクリルで保存箱を作成した。

2 扇骨 修理内容：接合、欠損部復元、補填、安定台座・保存箱作成



必要なものに接合、欠損部復元、補填を行ったうえ、ウレタンで型を取り安定台座を、形にあったアクリルで保存箱を作成した。

3 漆器椀 修理内容：接合、欠損部復元



接合すると隙間ができることから、隙間を補填し、隙間部分は実物部とは彩色を変えて旧状復旧した。

4 漆器皿 修理内容：接合・完形復元



接合後、復元部分は同系単色にて彩色し、当時の形状が復元された。